

コロナ禍を越え、その先へ



渋川市長
高木 勉

明けましておめでとうございます。

市民の皆さまにおかれましては、新春を健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、コロナの5類移行により、へそ祭りや山車まつりなど、市を代表する祭りが開催されたほか、各地域でも多くの催しが再開されました。市民の皆さまの楽しそうな姿を拝見し、ようやく街に活気が戻りつつあると感じました。

コロナ禍を経て、市は、市民の皆さまが容易に使える優しいデジタル化の実現に向けて、情報配信システムの導入や申請業務のオンライン化などに取り組んでいます。

また、将来を担う未来ある子ども達を、地域全体で大切に「育て」、誰もが自分らしく生きることができる共生社会の理念を「育み」、誰もが幸せを実感し、共に生きることのできる「育都」としてのまちづくりを推進していきます。

今年も、市民の皆さま一人一人が、未来に夢や希望を持った生活が送れるよう、守りから攻めに転じ、総力を挙げて市政に取り組んでいきます。

新しく迎えた年が、皆さまにとって輝かしく、幸多き素晴らしい年となりますよう、心からご祈念申し上げます。新年のごあいさついたします。

いのちと暮らしを守るために



渋川市議会議員
安力川 信之

輝かしい新年をお迎えのこととお慶びを申し上げます。

昨年2月は、合併後5回目となる議会議員選挙がありました。5人の初当選議員が誕生し、女性議員も倍増しました。議会も大きく変わり、社会の変化に応じるべく議会改革委員会を設置し、全議員で努力しています。また、ハラスメント防止のための研修会を行いました。議会からも情報発信に努め、議長定例記者会見を実施し、議会の動きを市民の皆さまへお届けできるよう取り組んでいます。

予算・決算をはじめ市政の監視は当然として、議会としてさらに政策提案に努めています。本市はこれまで、学校給食や保育料の無償化など全国トップクラスの子育て支援政策を

実現してきました。また、帯状疱疹ワクチンの公費助成なども実施して、高齢者の健康、病気の予防などにも努めてきました。健康寿命を延ばすべく、さらに予防医療にも施策を講じるべきと考えます。

一方で、世界では、いまだ対立と戦乱が続いています。この瞬間にも不幸に苦しめられている多くの人々がいます。不確実と不安の社会だからこそ希望を持たなければなりません。希望あふれる渋川市のために、議会として全力で取り組んでまいります。

本年も市民の皆さまのさまざまな声に耳を傾け、議会として、安心して暮らせる渋川市を目指してまいります。「いのちと暮らしを守るために全力で働いてまいります。」



今年の干支は「辰」

「辰」は、動物に当てはめると「竜」になり、十二支の中で唯一の空想上の生き物です。竜は、古来から中国において神獣や霊獣として親しまれ、権力の象徴、皇帝のシンボルとされています。また、日本において竜は、水神として各地で祭られていきます。池や滝の近くで信仰され、竜の口から水が出る像が作られているのは、そのためです。

現代においても、竜は多くの物語に登場し、時には生態系の頂点に君臨する神に近いものとして、時には邪悪で恐れられる存在として描かれています。いずれにしても、物語上の重要な

存在として、登場することが多いようです。

実在する生き物に目を向けると、竜にまつわる動物として、タツノオトシゴがいます。その姿が、一見して魚ではなく竜に似ていることから、この名がついたといわれています。タツノオトシゴは、とても温厚な生き物で、つがいになると同じペアで生涯を添い遂げます。オスが「育児嚢」と呼ばれる袋の中でメスが産んだ卵をふ化させるなど、愛情深い生き物として知られており、幸せのシンボルとされています。活気にあふれる年になるといわれている辰年を迎え、新年が、平和で幸せな日常が送られることを願います。

